

# 保育園安全だより

—事故報告より—

令和 6 年 1 月～ 3 月



2月の雪や河津桜の開花、春一番の強風と季節が行きつ戻りつしながら私達の日常も穏やかに戻ってきたように思います。令和5年度、1月から3月10日までに提出された、「事故報告書」の集計がまとまりましたので報告致します。

令和5年度 事故報告書集計 (1月～3月)												
	園内								園外			
	保育室	ホール	廊下	玄関	トイレ	テラス	園庭	その他	道路	公園	その他	計
0歳児	12	1	0	0	0	1	2	1	0	0	0	17
1歳児	45	0	0	0	0	6	12	1	1	3	0	68
2歳児	24	5	0	0	0	0	15	1	1	3	0	49
3歳児	11	1	1	0	0	1	15	0	0	2	1	32
4歳児	8	1	0	0	0	5	25	0	1	6	1	47
5歳児	9	3	0	0	0	3	20	1	0	1	2	39
合計	109	11	1	0	0	16	89	4	3	15	4	252

## 【集計から読み取れたこと】

今年度前半は、2歳児から5歳児クラスの保育室や園庭・散歩時の怪我が多くありました。後半は、乳児の子ども達の成長から不安定な足取りや興味や不安からくる行動の怪我が多く見受けられました。また、時期的に保育歴の浅い職員が保育を任せられての予測不足や可動式遊具配置や配慮不足などによるものが多かったです。子どもの声に耳を傾けたが受け止めが弱く目立った傷がないので様子を見てしまい、受診が遅れ骨折していた事例もありました。

## 【次のような配慮が必要です】

- ① 落ち着いて遊んでいるから大丈夫と思い保育士が、その場を離れない。
- ② 園庭に多人数が出た場合、誰がどこを見るか職員間で責任の所在を明確にする。
- ③ 保育歴の浅い職員に、活動中の立ち位置や見るポイント（注意・配慮点）を確認する。
- ④ 事故発生後は、複数職員で子どもの状況や体の痛みなどを聞きとり、全身を確認する。

## ●しっかり事故検証を行いましょう！

・実際の事故現場に足を運び、関わった職員や園長または副園長（複数職員で）と共に園児の行動、側にいた職員の行動を確認する。現場で行うことで職員が同じ発生状況や原因・問題点の理解につながり明確になります。現場検証をしっかりと行いどのようにしたらよいか具体的な対応・改善策を考えていきましょう。

※事故報告書の現場図と発生状況が、かみ合うように記録しましょう。



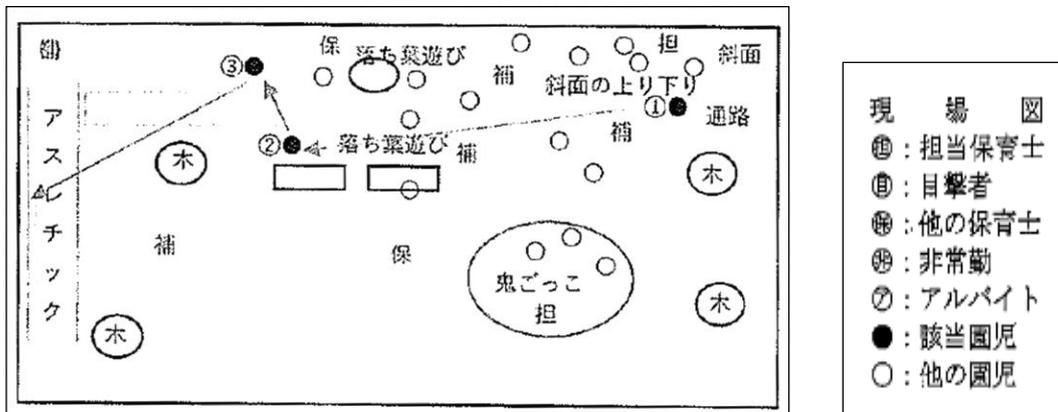
## 【公園での保育】

### 【事例1】 2歳児

#### 〈発生状況〉

2歳児16名、4歳児20名で〇〇公園に散歩に行く。10:05公園に着いてから遊ぶ場所を子ども達と確認し、保育士は配置場所を決めて付いた。鬼ごっこ・斜面の上り下り・落ち葉遊び・探索など、それぞれ好きな遊びを楽しんでいた。該当園児は斜面下の①場所で数名の子と一緒にドングリや松ぼっくりを拾って遊んでいた。次に②のベンチの横の切り株があるスペースに移り落ち葉を拾ったり、切り株に乗せたりして遊んでいた。その後③の場所で斜面を上り下りしながら移動し、しゃがみこんで遊んでいた。そこまでは様子を把握していた。その日のリーダーの4歳児担任と非常勤で人数確認を10:15、10:25にし、その時は36人全員いたのを確認した。10:30頃、他園の保育士が該当園児を連れてきてくれた。少し離れたアスレチックで他園が遊んでいるところに一人紛れ込んでいたとのこと。該当園児が居なくなっていることにその時点では誰も気づいていなかった。

#### 〈現場図〉



#### 〈原因・問題点〉

- ・非常勤職員を含め職員の役割分担をしっかりと決めていなかった。遊び出す前の配置こそ決めていたが、それぞれが遊びや配慮児に対応してしまい、全体把握をする役割に徹する職員が明確ではなかった。
- ・子どもの側を離れたり場所を離れたりする際の声かけができていなかった。

#### 〈その後の改善策〉

- ・人数確認は、2歳児は2歳児の担任・4歳児は4歳児の担任がそれぞれクラスの園児をしっかりと把握する。
- ・広い場所で遊ぶ際には範囲の区切りがわかりにくいため、端になるところに職員が立つなどし、明確にする。又、その職員は全体把握をするため、移動したり遊びに関わったりしないようにする。
- ・全職員の役割分担をしっかりと決め、子どもの人数や様子など互いに声をかけていく。

事例1は公園での見失い事故の15件の中の1件です。この日、園長は不在で夕方報告を受けた際はヒヤリハットとしての報告で内容は明確ではなかった。翌朝詳細を聞き、事故報告としてしっかり検証するように指示した。保護者への報告も翌朝となってしまったが担任と共に謝罪した。2クラス合同散歩で職員の数も多かったため、誰かが見てくれているだろうという気の緩みが無意識のうちにあったのではないかと思う。と園長先生のコメントにありましたが、園外に出た際は必ず場所の使い方や子ども達の遊びに対しての保育士の付き方等、綿密な打ち合わせが必要になってきます。この事例では、どんなことに気をつければ事故に繋がらなかったのかを各園で話し合い、散歩マニュアルに加えるなどして周知しましょう。



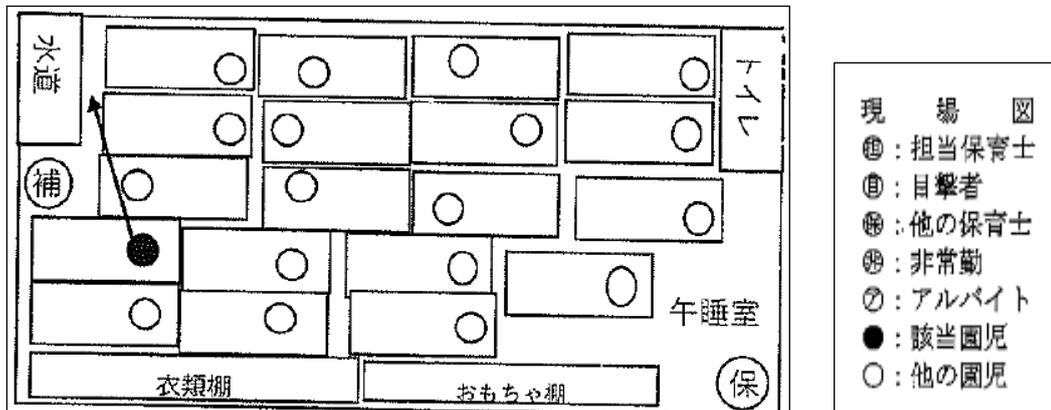
## 【食事時、口内の残留物に注意】

### 【事例2】 3歳児

#### 〈発生状況〉

食後、排泄等寝る前の準備を終えた子から隣室の午睡室へ移動し、紙芝居を読んでから午睡をした。該当児は、りんごなどおかわりをしていたため、最後の一人になるまで食事をしてきた。食べ終わってから一人で移動し、そのまま午睡をした。1時間が経ち、該当園児は咳で起き、水を飲もうと水道へ行った。その際該当園児の口内に2cmほどの大きさのリンゴが残っており、口から出し、傍にいた補助員に渡した。

#### 〈現場図〉



#### 〈原因・問題点〉

- ・食後、口内に食べ物が残っている確認する職員がいなかった。
- ・職員は保育室の掃除や配慮児の介助をしており、食後から午睡に入るまでの間の該当園児を見守る職員がいなかった。

#### 〈その後の改善策〉

- ・食後、口内を保育士に見せることを子ども達に伝え、何も残っていないことを確認している。
- ・職員間で今回のヒヤリを周知、食後や午睡時に異変がないか、より意識して見守ることを確認した。

事例2は、食事を口内に入れたまま、午睡に入ってしまう1時間後に咳をして、リンゴの破片(2cm)を出したことで口の中の残留物に気がついた事例です。

大事故につながりかねないケースですので、再度、食事時の注意点を確認してください。

1. 食品を大きいまま飲み込むことのないように小さく刻むなど発達年齢に合わせていきましょう。また、よく噛むように声を掛けていきましょう。
2. 口の中に掻き込むようにあわてて食べることのないように声を掛けましょう。
3. 食べ物を咀嚼しても口内にためこんでしまい吞みこめていないこともあります。食事時や食事後の様子についてしっかりと観察しましょう。
4. 食事後はお茶を飲むことや、ブクブクうがいをするなどで口の中を清潔に保つことと同時に残留物がないようにしましょう。

・食事面の特性を保護者と共有しておきましょう。

・乳幼児では嚥下機能が未熟なためリスクは高くなります。噛む力も弱く

詰まった時に 吐き出す力も弱いため、十分な注意が必要です。



## 【園児の状態に合った受診の判断と保護者への説明】

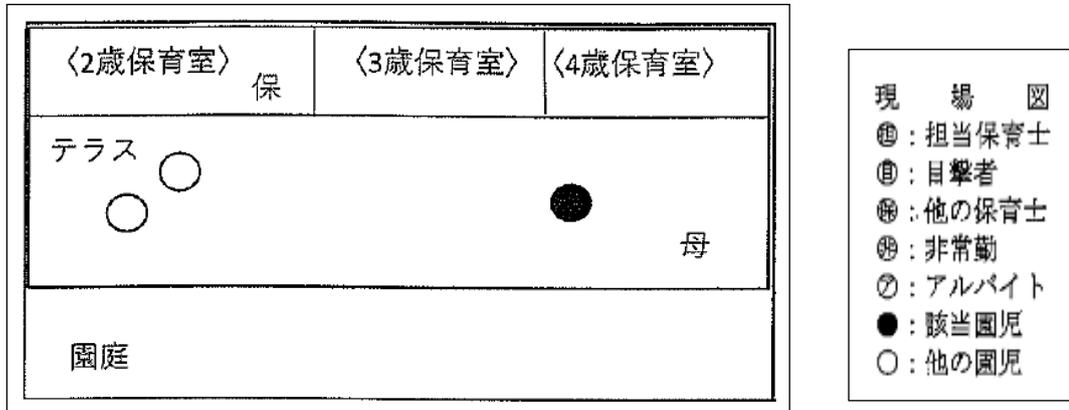
【事例1】 受託前の頭部外傷の対応

【診断名】 脳震盪

【発生日時】 令和6年1月11日（木） 午前8時20分頃

【クラス・性別】 4歳児クラス（女児）

【現場図】



【発生状況】

該当園児は母と登園した。同じ時刻にクラスの仲の良い友だちが登園していたのを見て、テラスを走り出した。母が支度をして目が離れた時に本児が滑って転倒した。転倒した際に、右後頭部をテラスにぶつけた。（2歳保育室で受け入れを行う前に発生した）

【応急救護処置の内容】

ぶつけた箇所を確認し、母が冷やシタオルで冷やした。落ち着いた後で本児を受け入れ、母は仕事に向かった。その後、該当園児が横になりたいと訴えたので事務所で横になれるスペースを用意し、様子を見守る。

【原因】

登園時に仲の良い友だちの登園も重なり、早く行きたくて走り出してしまったようだった。朝で身体が動きにくいことと寒さもあり、転倒してしまった。母も支度に気持ちが向いていて、本児の様子を見ていなかった。

【その後の改善点】

クラスの子どもと担任で、テラスで走ると転倒してしまうなど危険があることを再度確認を行う。保護者に対しても、登降園時にテラスや園庭を走ることによるケガや、園児同士の衝突による事故にもつながる危険性があることを注意喚起していく。

【園長意見】

今回の事故は、保護者から受け入れる前の出来事で、早番保育士も瞬間を見ていなかった。たまたま担任だったこともあり、朝のぐずりもいつもの姿と区別がつきづらく判断が難しかったようだ。結果的には、大事には至らなかったが、様々な課題が見えたので、今後の対応に活かしていけるよう、園内でしっかりと話し合っていきたい。

【後日、補足情報】

受け入れ時に、保護者より「頭を打って横になって休みたいと言っているの、休ませてください。」と申し出があり、保護者が頭部をクーリングし、顔色がよくなってきたため、何かあったら連絡すると説明し、受託しました。その後、本人から「寝たい。」と申し出があり眠ってしまい、20分ほどで目を覚めますが頭痛の訴え、泣き出すなどの様子が見られたため保護者同伴で受診をしました。受診先の病院ではCTや点滴などの処置を受け、脳震盪の診断が出ました。



～看護師のコメント～

これは受け入れ前に児が転倒し、受け入れ後に状態が悪化し受診した事例です。受け入れ前に受傷し、子どもが症状を訴えている場合は、受託せず保護者同伴での受診を検討しましょう。特に頭部外傷は短時間でも様子が急変することがあります。

「世田谷区保育園保健マニュアル」（2023年5月改訂）より抜粋

#### 4. ケガの対応

##### (7) 頭を打ったとき

<傷がない場合>

- ① 打った部分の腫脹の有無や程度を確認し、冷やしながら安静にして様子を見る
- ② 頭以外に外傷がないか観察する
- ③ その後、48時間はなるべく静かに過ごし様子を見る

症状がある場合は、速やかに受診する

- ④ 保護者に様子を伝えて、普段と異なる点があれば医療機関を受診するよう説明する

また初診で紹介状を持たず、200床以上の医療機関を受診する場合「選定療養費」がかかる場合があります。この療養費は保護者負担となり、高額になることもありますので、受診前に保護者に説明し、同意を得たうえで受診しましょう。受診前の混乱で説明するのを忘れてしまうことも考えられますので、入園時や保護者会などで説明しておくのもいいでしょう。



### 【園児の訴えと継続的な観察による受診】

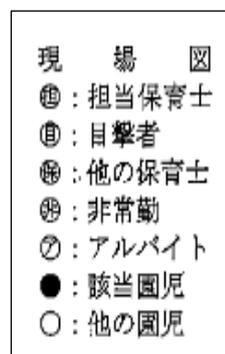
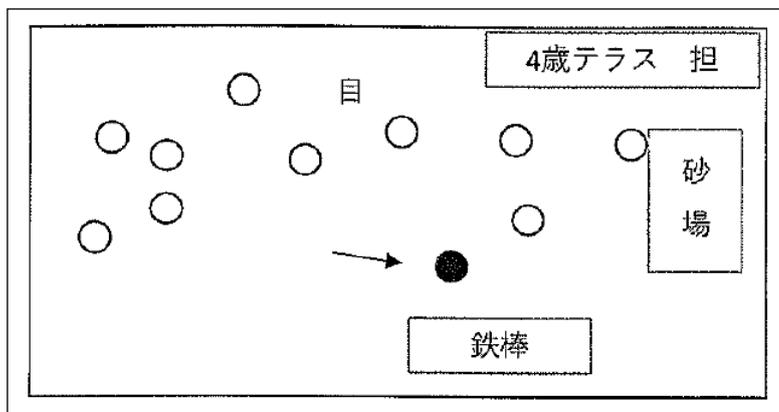
【事例2】 痛みを訴えていたが、受診が翌日になった事例

【診断名】 右手薬指の第2関節 靭帯損傷

【発生日時】 令和5年12月14日(木) 午後3時45分頃

【クラス・性別】 4歳児クラス (女児)

【現場図】



【発生状況】

おやつ後、帰りの支度が終わった園児から園庭に出て遊びだしていた。該当園児は他の園児をくすぐろうと走っていた時に手をつけて転ぶ。泣き声で気づいて対応し、痛いところを聞くと右ひざと右手の平だと言った。確認すると両方とも擦り傷になり、手の平は少量の出血があったので、流水で洗った後に冷やしたタオルで冷やした。その後、2

回ほど手の平の傷を指さして保育士に「痛い」と言っていた。お迎え時に母に報告をしている時に「指が痛い」と訴えた。母が指が曲がるか確認し、曲がるのでそのまま帰った。次の日非常勤職員と絵本を読んでいた際に指の痛みを訴えるので見ると、患部が青く内出血しており、少し腫れもみられた。

#### [応急救護処置の内容]

負傷箇所を流水で洗い、冷やす

#### [原因]

- ・園庭に出て間もない時で、体の動きも十分ではなく、他の園児をくすぐることに意識がいき、足元に注意が向いていなかった。転んだ時の手の付き方が悪かった。
- ・痛いところを聞いたが、丁寧な聞き取りと確認が十分でなかった。受診まで時間が経ってしまった。

#### [その後の改善点]

- ・園庭に出た時は、準備体操などをして体を十分に動かせる状態にする。また、走っている時には、走り方が危険ではないかを見守る。
- ・丁寧に痛いところを聞きながら細かいところまで見て、子どもの声にもよく耳を傾ける。

#### [園長意見]

今回の事故は、翌日の朝、指の内出血に気づき、受診となった。前日のお迎え時に保護者と確認した時点では、内出血、はれもなかったため気づけなかったが、けがの経過を見ていくことが大切であることを再認識した。転倒した時は、打撲している認識もし、けがの状況を丁寧に把握していくようにしていく。

#### ～看護師のコメント～

この事例は、受傷後に痛みの訴えが続いていたにもかかわらず、受傷部位の特定ができず、翌日に患部の内出血と腫れが見られたため受診した例です。

子どもが痛いと訴えた時は、どこが痛いのか受傷部位全体とともに広範囲に観察する必要があります。痛みの訴えがある時は、指の骨折の可能性だけでなく靭帯を痛めたり捻挫をしていたりする可能性もあります。指が曲がるから問題ないと判断せず、痛みが続く場合には医療機関を受診しましょう。

子どもだけでなく職員の職務中のけがも増えており、骨折等重症例が多く報告されています。職員も子どもたちと一緒に、動き出す前の準備体操を徹底したり、日頃からの運動習慣を心がけたりしていきましょう。



## 【治療に繋げるための適切な歯の保存】

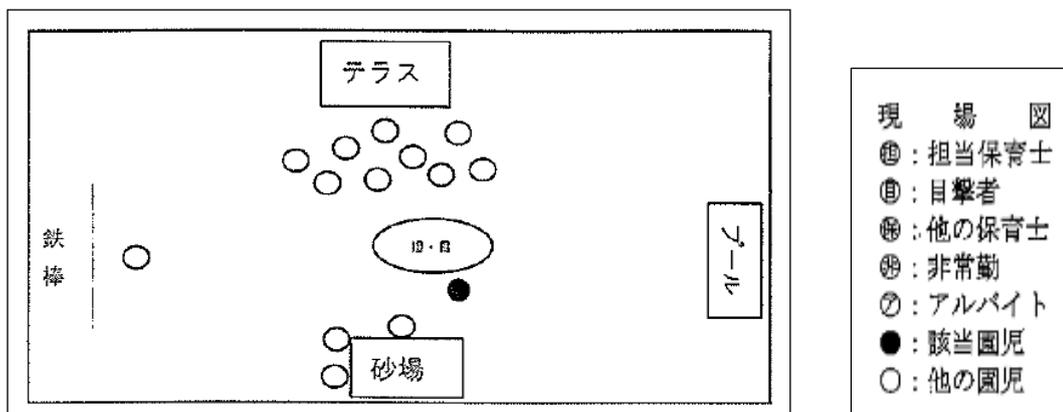
【事例3】 歯牙脱落で落ちていた歯を歯科に持っていった事例

【診断名】 外傷性歯牙脱落

【発生日時】 令和5年11月20日(月) 午前10時45分頃

【クラス・性別】 4歳児クラス (男児)

【現場図】



【発生状況】

10:45 担当保育士が転がしドッジボールを始めるため、タイヤを移動しようと立てて体の横に持っていた。その保育士の後方から、友達と追いかけて遊んでいた該当園児がタイヤにぶつかった。衝突直後は、泣いたり痛みを訴えたりすることがなかった。そのあとすぐに、口の中を触りながら保育士に「血が出た」と訴えてきた。口腔内を確認すると、歯が抜けたように見える状態で出血が見られた。

【応急救護処置の内容】

担当保育士が口腔を流水で洗い、その後園長・副園長が患部を確認する。また抜けた歯を探して発見しすぐに牛乳へつけた。

【原因】

1. 該当園児が走ってきたことはわかってきたが、見えているだろうと判断し、すぐにタイヤをよけずに持っていた。
2. タイヤを使ったクラスが片付けず園庭に置いたままにしていた。その後、4歳児クラスが園庭に出る際、走って遊ぶことが予想されたがタイヤを片付けず遊びだしてしまっった。

【その後の改善点】

1. ・乳幼児の視野について学び、それを念頭に置き保育に当たる。よけることができるだろうと思わず、当たるかもしれないという気持ちを持ち、障害物はよける。
  - ・日頃から運動遊びなどを行い、多様な動きができるように工夫していく。
2. ・職員間で遊び終わったタイヤを所定の場所に戻すことを周知する。
  - ・園庭で遊びだす前に安全に遊べる環境が整っているか確認をする。

【園長意見】

今回タイヤにぶつかり外傷性歯牙脱落という大きなけがになってしまった。様々な反省をする中で、職員への子どもの視野についての周知が十分だったかと反省した。子どもの視野は幼児であっても大人よりかなり狭い。今後は、日常の中の危険を改めて確認するため、改善策を見届けると共に、年度の初め子どもの視力・視野を含めた事故防止と安全対策を確認する。



～看護師のコメント～

歯が抜けて牛乳につけて受診した際に、生理食塩水か保存液（ティースキーパー）につけての受診を歯科医から推奨された事例です。牛乳アレルギーのある児には牛乳は使用できないことから、抜け落ちた歯の保存は保存液（ティースキーパー）を第1選択とし、園に常備（未使用の状態で2年間は使用可）しておくことをお勧めします。

「世田谷区保育園保健マニュアル」（2023年5月改訂）より抜粋

#### 4. ケガの対応

##### (14) 歯・口腔の外傷

- ① 口に砂や土がついている時は洗い、状態を確認し、止血し、冷やすなど応急処置をする
- ② 受傷の部位・程度により、小児歯科・口腔外科を受診する
  - ・歯を打って歯肉からの出血がある場合は、歯をグラグラさせて確かめたりしない
  - ・歯が折れたり、抜けた時は、その歯を持って、できるだけ早く小児歯科受診する（適切な処置をすれば戻せる場合がある）
  - ・とれた歯はそのまま（汚れがついていても洗ったり、拭いたりしない。歯根部を触らないようにする）で、保存液（ティースキーパー）もしくは牛乳に入れる。（ただし牛乳アレルギーの児には使用しない）。保存液などがない場合は、清潔なガーゼを水道水で濡らし乾燥させない状態で持っていく
  - ・受診までの間、口の中やとれた歯を手指で触らないようにする

